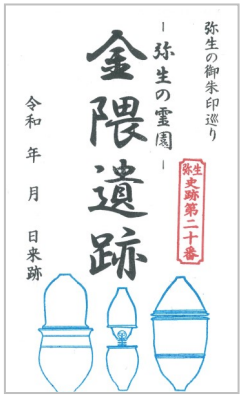
お墓は家から近い方が良い?!

第14回お墓の消費者実態調査（2023）によると、お墓に求めるものの上位に「自宅からアクセスのよい場所」が挙げられていました。現代では管理のしやすさが重視されているようです。福岡市の弥生時代の墓地も、居住域と比較的近いことが発掘調査からわかっています。残された人々の事情、地形や環境、死者との関係性や死に対する考え方など、様々な要因がお墓との距離に反映されているのかもしれませんね。

弥生の”御朱印”を集めよう

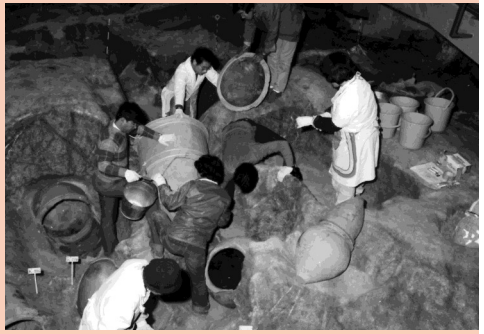
金隈遺跡の御朱印 ▶



ひとことで弥生時代と言っても、その間500年以上。日本各地で、地域ごとに特徴的な弥生時代の遺跡が多く見つかっています。令和４年度からは、そのような全国の弥生時代遺跡を巡って集める「弥生の御朱印」の配布が始まりました。福岡市では、金隈遺跡と板付遺跡でご用意しています。金隈遺跡の御朱印は、某アニメを彷彿（ほうふつ）とさせるポーズの人骨と甕棺というユニークなデザイン。ご来館の際には、ぜひお気に入りの野帳などをお持ちの上、押印してみてください。

表紙の写真　金隈遺跡甕棺展示館

金隈遺跡甕棺展示館は、昭和60年（1985）３月に開館し、来年40周年を迎えます。開館当初は、弥生時代の墓地の一部を発掘調査時のまま巨大な覆屋（おおいや）ですっぽりと覆い、そのまま展示する全国初の施設として注目されました。



▲ 金隈遺跡展示館に甕棺を設置している様子

編集・発行 / 福岡市経済観光文化局文化財活用部

〒810-8620　福岡市中央区天神1-8-1／TEL：092-711-4666

福岡市の文化財HP ：https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/

福岡市の文化財　fukuoka_bunkazai

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

歴史の風

ふくおか文化財だより

Vol.42

2024年9月号

金隈遺跡甕棺展示館

特集　弥生時代のお墓事情

音声コードのご利用には、Uni-Voice アプリのダウンロードが必要です。

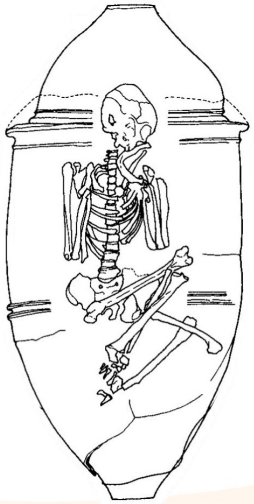
特 集

弥生時代の お墓事情

現代のお墓は、墓石や納骨堂のほか、樹木葬や共同墓など色々な形があり、価値観の多様化や少子高齢化など現代社会の様々な要因が影響を与えています。お墓事情はその時代の社会情勢を反映していると言えそうです。

福岡市内の遺跡では、縄文時代から江戸時代のお墓が発掘されています。そのうち特に数の多い弥生時代のお墓から、当時の社会情勢について見てみましょう。

弥生時代は、水田耕作が始まり、青銅器や鉄器が導入されて社会が大きく変化した時代です。これらの便利な技術や道具の普及により、土地の開墾が進み、人口が急増したことが遺跡の発掘調査や遺伝子解析の結果からわかっています。



弥生時代には、右図のように大型の甕（大きいものでは長さ140cm以上！）に遺体を埋葬する「甕棺墓」という墓が作られました。この埋葬方法は主に北部九州で見られますが、なぜこの方法が選ばれたのかは、はっきりしていません。研究者による様々な説の中には、古代中国で流行した不老不死を目指す神仙思想に基づく、遺体保存の考えが関係しているという見解もあります。いずれにせよ、甕棺墓は弥生時代の北部九州で広まった独自の死生観を反映していると言えるでしょう。

墓から発掘された人骨からは、性別、年齢、身長のほか場合によっては死因や病歴なども推測できます。金隈遺跡（博多区）で発見された人骨の年齢を調べると、約半数が未成年でした。また、こどものサイズに合わせた「小児棺」と呼ばれる甕棺も多く見つかっており、当時の社会ではこどもの死亡率が高かったということがわかります。

顕孝寺遺跡（東区）などからは、石剣が刺さったままの状態で甕棺に埋葬された墓や切断された頭部だけが埋葬された甕棺墓が見つかっています。これらの発掘調査成果から、人々が武器を手にして戦闘を行っていた弥生時代の社会の様子が浮かび上がります。

また、弥生時代の墓からは様々な副葬品が発掘されています。例えば、南の島で採れるゴホウラという貝で作られた腕輪（金隈遺跡など）や青銅器の剣（岸田遺跡など）、銅鏡・剣・勾玉などのセット（吉武高木遺跡）もあります。これらの副葬品は、階層化が進んだ弥生時代において、埋葬された人の身分や権威を示すものだと考えられます。

３世紀頃の中国の歴史書『魏志倭人伝』には、当時の日本で人が亡くなった時の様子について、「始めて死するや停喪すること十余日、時に当たりて肉を食わず、喪主は哭泣し他人は就きて歌舞し飲酒す」と記されています。社会情勢が移り変わり、墓の形や埋葬の方法が変化しても、「死」を悼む気持ちは変わらないのかもしれません。

弥生時代のお墓いろいろ

木を組み合わせて棺とする墓は「木棺墓」と呼ばれます。木は腐りやすいため、棺の本体が残っていることは滅多にありません。

石を組み合わせて棺とする墓は「石棺墓」と呼ばれます。

地面を掘って埋葬するだけの墓は「土壙墓」と呼ばれます。木や石で蓋をするものもあります。

もっと知りたい！

弥生時代のお墓についてもっと詳しく知りたい方のために、市内の図書館などで閲覧できる資料をご紹介します。

◇『弥生人のタイムカプセル』福岡市博物館1998　◇『早良王墓の時代』福岡市立歴史資料館1986　◇『新修 福岡市史』資料編　考古①/考古②

※記事内で紹介した遺跡の発掘調査報告書は、図書館で閲覧できるほか、奈良文化財研究所の「全国遺跡報告総覧」ウェブサイトからダウンロードすることができます。